

老年期における表示の明視性の研究(1) - 問題点の調査 -
 共立女大 ○伊藤紀之 玉田真紀、仙台白百合短大 鈴木良子
 共立女短大 藤田信子、山梨県立女短大 小菅啓子
 青葉学園短大 芦澤昌子

目的 急速に高齢化社会をむかえたわが国はあらゆる分野でその対策が急がれている。表示についても例外ではない。身のまわりには技術革新のもと、新しい生活用品や機器類が次々と導入されつつある。それらには使い方や操作のための説明や表示が存在する。また、情報化時代をむかえ、様々な視覚情報が生活を取りまいている。それらを含めた表示が老年期の人々に的確に伝達されているかどうか、問題があるとしたらどのような点かを明らかにする。

方法 平成2年8月より3年3月にかけて全国各地の日本家政学会、色彩・意匠学部会会員を対象に郵送法により老年期の人々が抱える問題点についてアンケートを実施した。

結果 回答を集計・分析した結果、次のような問題点が明らかになった。

1・公共の場での問題点 A:交通標識について B:地下鉄の駅名表示と地下街の案内表示について C:公共トイレの絵表示について d:暗い所の表示について e:老年期の人々が集まる病院、役所、デパートやスーパーなどの表示について。

2・家庭生活の場での問題点 A:家電製品について。最近の製品はシンプルになりスイッチやボタンがめだたない。文字が小さい。表示・文字が背景色と区別しにくい。B:食品、薬品、洗剤などの表示・文字が小さい。

これらに共通するものは表示・文字の大きさ、表示・文字の色と背景色の関係であった。

尚、この一連の研究は文部省科学研究費により実施した「表示研究」の一部である。